

## 九州大学で活躍する女性たち

今回は九州大学で初の女性研究院長に就任された上山あゆみ氏です。



大学院人文科学研究院長

## 上山 あゆみ

＼略歴／

京都大学文学研究科修了、南カリフォルニア大学でPh.D.取得。京都外国語大学助教授、九州大学人文科学研究院准教授を経て平成26年同研究院教授。令和4年4月から人文科学研究院長に就任。

## 言葉の意味を考える言語学を

専門としている理論言語学は、言葉を生み出す仕組みを、モデルを作ってシミュレートして考えます。AIは大量のデータを使って多くの場面を想定し、近年受け答えの精度を上げていますが、意味を理解しているわけではありません。でも言葉は「意味」が大事です。理論言語学はアメリカ発祥なので、英語の視点から研究さ

れがちですが、私は子供の頃から無意識に身についた日本語を手掛かりに、その表現の中に眠っている何かを見つけられないかという期待で研究を進めています。

## 意識していなかったジェンダーギャップ

学生時代も確かに先生方は男性が圧倒的に多かったです。でも所属する学会では活発に活躍されている女性研究者が何人もいらして、中には学会長になった人もいます。そんな女性の先輩方から多くを学びました。九州大学人文科学研究院に着任した時、女性教員は数人だけでしたが、私自身は割と無頓着でその少なさを意識することは無かったです。後から着任された方に指摘されて、そうかなと思ったくらいです。

## 腹をくくって研究院長に

研究院長就任前の4年間は副研究院長の立場で部局の運営に携わってきました。研究院長就任に当たっては多少のプレッシャーは感じましたが、腹をくくる覚悟をしました。

部長局として責任を取ることの重さを感じています。しかし、何事も自分一人で決めず、周囲の意見を聞いたうえで最終的な決断をするようにしています。また、お任せできる場所をご担当の先生や得意な方にお任せし、全体としてより良い成果が得られるよう進めていければと思っています。

## 新たな人材養成プログラムの立ち上げ

以前から人文とデジタルとの関係をなんとかしたいと思っていたところに、研究院長就任後、文部科学省大学教育再生戦略推進費「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業～Xプログラム～」の募集がありました。公募期間も短かったのですが、思いきって手を挙げることにしました。申請書の土台は作成しましたが、ご経験のある先生方、事務の方々の力を借り、申請書を良い形に仕上げることができました。

デジタル社会に移行しつつある中、理系主導のデータ駆動的な研究ではなく、人文からみたデジタルヒューマニティーズも絶対に必要です。そこでこの提案を思いつき、無事採択されました。これから大学院教育の充実に向け一つ一つ実現させていきます。

## あとにつづく世代のために

国立大学の文学部は、これからの日本の人文学の将来を左右する大切な役割を担っていると思っています。年齢を重ねてきて思うことは、自分たちのあとにつづく世代のため、何とか少しでも良い形で、良いものを残していきたいということです。研究院長としてそのことを実現できるよう尽力していきたいと思います。